

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年4月19日

事業所名:児童発達支援事業所すたーと

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			必要なスペースは確保されているが、利用児の状況により個別対応が必要な事がある為、建て替え時には他の部屋を用意する等の改善を検討していく。
	2	職員配置数は適切であるか	○		利用児の状況に応じて、全職員でフォローする体制を作っている。	職員配置基準は適切であるが、利用児が増員した場合には、安全な運営が行えるよう職員の増員を適宜検討して事業所内に関しては、段差等なくバリアフリー化されているが、法人内はされていない。建て替え時には、バリアフリー化されている施設作りを行なっていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		利用児の個人棚・椅子は、顔写真付きの名札を貼って、視覚からも分かりやすいよう工夫している。文字や絵カードも使用しながら、視覚からも情報伝達出来るよう工夫している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		毎日の利用後は、清掃・消毒・安全点検を行なっている。冷暖房・加湿器等で環境調整を行なっている。	活動に使用する物品が増えてきている為、荷物の整理整頓を行っていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		毎月の会議の際に、改善が必要な事項があれば、検討し改善を図っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		毎年、事業所自己評価を実施している。保護者の意向に関しては、面談や自己評価表等から把握し、必要に応じて検討⇒改善に繋げている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		毎年、事業所自己評価を実施している。自己評価の結果から、改善点を見出して改善に繋げている。	事業所自己評価の結果は、ホームページにて公表し、保護者に対しては毎月のお便りの別紙として、公表結果を文書でお渡ししています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		第三者評価は実施していない。今後、法人内で検討の上、必要に応じて実施していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		外部研修も、可能な限り参加している。研修後は内部研修に繋げ、研修に参加出来なかった職員にも情報共有するようになっている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		保護者のニーズに関しては、面談等で聞き取りを行なっている。日頃の活動の様子からアセスメントを行い、会議で検討し、個別支援計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を計るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○	会議で、個々の発達段階等を話し合い、アセスメントを行なっている。	アセスメントツールは使用していない為、利用する子どもに合ったアセスメントツールを模索し、使用に向けて検討していく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		それぞれの項目において、必要に応じた項目で支援目標を設定している。	家族支援・地域支援の項目は、事業所として力不足な面がある為、今後研修への参加も検討しながら事業所としての力を付けていけるよう努力していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		作成した個別支援計画は、会議で職員と共有し、統一した支援が行えるよう工夫している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		年間計画を踏まえて、代表の職員が月間プログラムを作成し、会議で検討して決定している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		季節の行事を取り入れたり、新しい活動も取り入れながら、利用児童に合った活動を提供出来るよう工夫している。	更なる活動の充実を図る為、研修に参加したり、職員の自己研鑽に努めていく。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		基本的には、集団での活動だが、個々の利用児童の発達段階に合った活動を提供出来るよう工夫している。	今後も、利用児童の状況に応じて、個別・集団での活動を提供出来るよう事業所としての力を付けていく。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		毎朝、その日の利用児童・活動内容・利用者に関する情報共有を行なっている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		支援終了後には、その日の利用児童の様子で気になった事等を話し合い、翌日以降の支援に繋げている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		パソコンにて毎日記録している。記録は、1ヶ月ごとに内容を確認し、まとめを行い、支援に役立てている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		日々の利用児童の様子を確認し、支援計画の内容に合っているか確認を行い、必要に応じて見直しを行なっている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか	○		児童発達支援管理責任者が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか		○		現在まで関わる機会がなかったが、今後は必要に応じて連携を図っていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		必要に応じて、サービス担当者会議を実施し、利用児童の現状等の情報共有を行なっている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		入学前には、活動の様子を見学してもらったり、電話や書面での情報共有を実施している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○		現在まで機会がなかった為、今後関係を構築していく。また、研修があれば積極的に参加していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		現在まで交流の場を作る事が出来なかった。近隣の保育園等と交流する機会が持てるよう検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか		○		現在まで、機会がなかった。今後機会があれば参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		送迎で顔を合わせた時・連絡帳・手紙・面談等で事業所・家庭での利用児童の様子・課題の情報共有を行なっている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		○		アドバイス等は適宜行っているが、プログラムまで十分に行っていない。研修等があれば積極的に参加し、充実させていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に説明を行い、事業所前にも掲示している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		年に2回の個別面談を実施し、個別支援計画の内容の説明を行い、保護者に同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		悩み・相談が保護者からあった際には、その都度電話やお手紙等で、助言を行なっている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		法人全体の保護者会を開催している。法人全体の行事の収穫祭では、保護者同士が関わる機会が持てた。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		相談や申し入れがあった場合には、事業所内・法人内で検討し体制を整え、適切に対応出来るよう努めている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		法人の広報誌を年3回、事業所のお便りを毎月発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		必要な事項に関しては、同意書をとるようにしている。個人情報の書かれているファイル等は、施錠して管理をしている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		利用児童に対しては、絵カードやサインも用いて、視覚からも伝わりやすいよう工夫している。保護者に対しては、可能な限り書面でも情報を伝えるよう心掛けている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		法人の行事として、収穫祭を実施しているが、コロナ禍が明けたばかりの為、地域住民を招待するまでには至っていない。今後、実施出来るよう検討していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		各マニュアルを策定し、会議で確認・修正をしたり、各職員が常時確認出来るようファイリングしている。	保護者への周知は、各マニュアルの部数が多い事もあり、周知出来ない。どのような形で保護者に周知していけるか検討していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		毎月、避難訓練を実施している。利用児童には、防災紙芝居の読み聞かせを行なっている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		契約時に保護者に確認を行い、個別の緊急時対応マニュアルを作成し、職員間で情報共有している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		医師の指示書を提出して頂き、それに基づいて対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ヒヤリハット・事故報告はファイリングして閲覧出来るようにしている。会議の議題にも挙げ、周知・対応の検討をしている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		代表者が、毎年虐待研修を受け、内部研修を実施。支援の自己評価・ストレスチェック等を実施している。	その他、福祉施設や保育施設での事故・虐待ニュース等を会議で取り上げ、職員と共有し事業所の安心・安全な運営に努めている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			現在まで、身体拘束が必要な利用児童はいない。必要な場合には、必要な手順を踏んで実施していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行なった自己評価です。